

### 第3回バイオリソースセンター遺伝子材料検討委員会議事録要旨

1. 日 時 平成15年11月28日(金) 14:00~16:15
2. 場 所 KKRホテル東京 11階 竹の間
3. 出席者  
(委員等) 斎藤 泉 委員長  
長谷川 護、濱田 洋文、向井 鏢三郎、松島 綱治、宮崎 純一、吉田 純 各委員  
文部科学省 藤田係長、鈴木調査員  
森脇センター長、小幡リソース基盤開発部長、横山室長、村田前任研究員、木村研究員、鶴飼技師  
(事務局) 増田部長、根本課長代理 他
4. 議 題
  - (1) 前回議事の確認
  - (2) 遺伝子材料開発室の事業実績の概要説明
  - (3) 遺伝子材料開発室の事業の今後の方針について
5. 主な内容
  - (1) 前回議事の確認
    - ① 第1回、第2回の議事録と第2回議事要旨を各委員に配布し、内容について確認を行ったが、特に各委員からの修正、指摘等はなかった。
  - (2) 遺伝子材料開発室の事業実績の概要説明
    - ① バイオリソースの諸外国の情勢は、欧米におけるバイオリソースの囲い込み等、この数年非常に厳しいものがあり、途上国においてもプロフィット・シェアリングの要求、その端的な例が多様性条約などというところに現れており、OECD(経済協力開発機構)でもバイオリソースの重要性というものが認識されつつある。OECDではグローバル・バイオリソースセンター・ネットワークというものを構築しようとする方向で作業が進められている。我が国としてどう対応するかが今後の重要課題となっている。
    - ② 遺伝子材料開発室は、平成14年度からナショナル・バイオリソース・プロジェクトという枠組みの中で遺伝子材料の収集・保存・提供に係わる中核機関として認定され事業を進めている。従来型のDNAバンクと日本人由来の遺伝子バンクで年間の目標収集数が100クローンとなっている。整列化ライブラリー、遺伝子ライブラリー等について収集を行い、提供では、4月~10月末まで遺伝子ライブラリー等3万弱を提供している。将来を見据えてセット化バンク、プロモーターバンクを構築して行きたい。
    - ③ 遺伝子材料の場合、他のリソースと異なり世代交代が早く常に周囲の状況を察知しながら、需要が期待されるリソースを提供することが必要である。そのためには、付加価値のついたリソースを提供しなければならない。
  - (3) 遺伝子材料開発室の事業の今後の方針について
    - ① 遺伝子材料開発室の収集・保存・提供業務関連経費が年間予算1.2億ではかな

り少ないのではないか。

- ② 理研BRCの事業は、継続性が非常に重要であり、ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）のような時限的な予算措置ではなく恒久的な事業予算で運営されるべきである。ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）の場合3年で中間評価があるが、短期間ででの評価は事業の性格上適当でない。目先の評価ではなく長期展望に立脚した評価をすべきである。
- ③ 遺伝子材料開発室の予算がないということで横山室長の主観で保存されているリソースが廃棄されては困る。個人レベルの評価ではなく、関連ブレンによる検討が必要。因みに本リソース検討委員会がこのような案件について対応するために設置されている。
- ④ 理研脳センターの宮脇先生が発見したKaede（蛍光タンパク質）だが、少し特許が絡んでいると思うが、できればそれを使って各組織のプロモーターに発現をEGFPの代わりとしてセットとして提供されてはどうか。
- ⑤ cDNAのコレクションは、現在も日本のコアにできるものの一つであり、日本の他の機関と連携を強化し今後も対応すべきである。
- ⑥ 横山先生がウイルスコアバンクで作出したアデノウイルスは、世界的に貢献している。遺伝子発現を制御する細胞株とウイルス等の組み合わせ等、垣根を越えた新しいリソースの可能性もある。収集にあたっては5年～10年先を見据えたりリソースの収集が重要である。
- ⑦ 完全長cDNA等、cDNAをどれだけきちんと持つかが重要だ。
- ⑧ 寄託にあたっての方法で、現状理研BRCからの寄託依頼に対し、5%の寄託に留まっている。アメリカATCCのように、寄託依頼を受けて名誉と思えるような様式の依頼書とすべきである。
- ⑨ 科研費の申請書式に最近特許に関する記載項目が付加された。バンクに寄託したリソース等の件数も記載項目として文科省ライフサイエンス課の方で働きかけをして欲しい。
- ⑩ 国立大学の場合、独法化を踏まえ知的財産権の保持に傾注している。バンクに寄託するとリソースと共に知的所有権も移動すると言った拡大解釈をされる場合が多い。
- ⑪ 寄託可能な遺伝子材料の条件を明確に、ユーザーに示すことが必要。例えばPCRで増幅させたcDNA断片は、どのような条件の時に寄託可能か、または不可能か判断基準を示して欲しい。

以上